

日本学術会議・地球惑星科学委員会・地球惑星科学国際連携分科会
SCOSTEP-STPP 小委員会(第 24 期・第 1 回)議事録

開催日時: 2018 年 2 月 13 日(火) 14:30-15:40

開催場所: 名古屋大学宇宙地球環境研究所 研究所共同館 I 7 階ミーティングルーム
(名古屋市千種区不老町) 及び Zoom を用いたインターネット会議

出席者: 石井守、上野悟、大村善治、小原隆博、草野完也、坂尾太郎、塩川和夫、末松芳法、
高橋幸弘、寺田直樹、中村卓司、藤井良一、星野真弘、増田智、村山泰啓、吉川顕正
欠席者: 津田敏隆、廣岡俊彦、山本衛
オブザーバ: 羽田亨

議事に入る前に、塩川委員から本小委員会の設置趣意書は、中村卓司前 SCOSTEP 小委員会委員長が学術会議に提出し、すでに承認された旨、報告があった。また、本小委員会の設置期間は 2017 年 12 月から 2020 年 9 月末までであることが確認された。

議事次第

1) 委員長、副委員長、幹事の決定

委員長として、塩川委員が推薦され、全会一致で賛同された。引き続き、副委員長として、中村委員、吉川委員が推薦され、承認された。また、幹事として、増田委員が推薦され、承認された。

2) VarSITI プログラム(2014-2018)終了後の次期 SCOSTEP プログラムの策定に関する日本側の対応について

塩川委員長から VarSITI の次のプログラムの決定の流れについての説明があった後、自由討論が行われた。主な意見は下記のとおりである。

- ・全体をカバーするようなまとめ方よりは、個別の尖ったテーマを提案しないと採用されない。
- ・サイエンスだけではなく、研究手法を強調するようなテーマ設定はどうか。
例えば、超小型衛星による多点観測、AI、ビッグデータ、データ同化、CODATA との関係、モデリング。
WDS の取り組みも参考にしてみてもどうか。
新しいツール・手法のリストアップをしてはどうか。
- ・サイエンスと手法を縦糸、横糸のように組み合わせたテーマ設定も有りうるのではないか。
- ・サイエンスとしては、領域間結合、長期・短期変動で分けるか等、いろいろとやり方はあるが、従来と似たテーマ設定にならざるを得ない。大きなテーマは変えないで、キーワードで工夫するのも一案ではないか。

- ・マスタープランや夢ロードマップなどと連携して、推進したいプロジェクトを打ち出してはどうか。概算要求等も意識する。
- ・惑星科学も組み込みたいが、SCOSTEP の中で推進するグループがないと難しい。

上記のような議論の後、今後の進め方として、塩川委員長から、ワーキンググループで検討してはどうかという提案があり、承認された。ワーキンググループのリーダーは塩川委員長、メンバーは本小委員会の委員全員とし、メーリングリストをベースにインターネット会議も併用して、次回の本小委員会まで議論する。

3) 次回会合の予定

2018 年 5 月 20-24 日の JpGU 期間中に開催することになった。

4) その他

これまで STPP 小委員会が担ってきたネットワーク観測やキャパシティ・ビルディングなどの議論を本小委員会でどのように対応していくかを、吉川委員を中心に次回までに検討することになった。